

Ecola

イ・コ・ラ

No. 26

発行 2017年11月11日

こんにちは！ものすご〜く暑かった夏が過ぎ、気がつけばもう11月。前回のイコラから半年が経ちましたが、皆さまいかがお過ごしでしたか？

世間では、国会議員の不倫スキャンダルや秘書への暴言、そして衆議院の解散、新党結成、総選挙…と、めまぐるしく動いていきましたね。

私たちの会でも、いろんな行事を行っていましたよ。29年度上半期の活動を一緒に振り返っていきましょう。少し「違ುದろ〜」というところがあったとしても「忖度」していただけたら幸いです(笑)

NPO 法人和歌山県自閉症協会総会



平成29年度NPO法人和歌山県自閉症協会総会が、4月9日(日)に和歌山県勤労福祉会館プラザホープ3F会議室にて開催されました。

議題の最後に、役員改選による新役員さんの紹介がありました。また、総会後にはさっそく第1回理事会が行われました。



大久保会長の挨拶

講演会

2017 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念講演会

主催 和歌山県・和歌山県教育委員会

NPO 法人和歌山県自閉症協会

記念講演 「発達障害者の就労支援最前線」

～合理的配慮とその実践事例～

梅永 雄二 氏（早稲田大学 教育・総合科学学術院教授）



4月9日（日）13時30分より、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ 4階ホールにて、早稲田大学教育・総合科学学術院教授 梅永雄二先生を招いて、2017年世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念講演会が開催されました。

自閉症スペクトラム（ASD）の特徴についての説明のあと、ASD者に対する合理的配慮とは「構造化（環境をわかりやすく整えること）」だとし、早稲田大学で実際行われている発達障害学生への合理的配慮（授業の履修や、授業・試験時での配慮、大学生活での安心できる居場所作りなど）を紹介して下さいました。

また、就労の場での合理的配慮（構造化）の例として、職務内容を細かく分割すること、書面による支持やチェックリストを与えること、期待されることを具体的に数値で測定できるようにすることなど説明されていました。

和歌山市分会総会

平成29年度 NPO 法人和歌山県自閉症協会和歌山市分会総会が、6月4日（日）に和歌山市中央コミュニティセンターにて開催されました。

総会終了後には座談会が開かれ、レクリエーションの希望などが話し合われました。



藤原会長の挨拶



来賓の和歌山市障害者支援課長

西 喜彦 様



夏休み親子クッキング

平成 29 年 8 月 8 日 (火) 中央コミュニティセンター 調理室

参加者 13 名 (5 家族 11 名 + 役員 2 名)

<メニュー> 手巻き寿司 (玉子、カニかま、きゅうり、ツナ、
たくわん、大葉、梅しそ、納豆)
みそ汁 (豆腐、玉ねぎ、ねぎ)
フルーツゼリー



7 月 21 日に発生した台風 5 号がノロノロと迷走したので心配していましたが、前日に上陸し無事に通過したので、なんとか開催することができました。

手巻き寿司の具の厚焼き玉子を作るのに、卵を割る時に黄身がつぶれてしまい、ショックのあまり泣きだしてしまう子や、慣れない人の中で頑張ってお手伝いしたせいか(?) 気分が悪くなってしまったお姉ちゃん…などなど、色々ハプニングはありましたが、時間通りに美味しく出来上がり、みんないつも以上にたくさん食べられたようでした。



西居さん (母) の感想です

今回、2 回目の親子クッキングへ参加しました。メニューは、手巻き寿司、お味噌汁、デザートです。子供達も参加しやすいメニューで、皆、真剣に混ぜたり切ったりとお手伝いしてくれました。

手巻き寿司は、家でもするのですが、自分で好きな具を選び巻いていくのが楽しいようです。

飽きてくると、子供達は、皆で楽しく遊んでいました。初めて会うお友達とも、ワイワイと遊んでいる様子には私はうれしかったし、子供の楽しい様子を見ると、次回もまた参加したいなと思います。

来年はもっと、参加数が増えて、賑やかに楽しい時間を過ごせたらいいなと思います。

就学期お母さんの交流会

平成 29 年 6 月 29 日 (木)
中央コミュニティセンター 和室(大)
参加者 12 名 (うち一般 5 名)



学期に一度ずつ開催されている交流会ですが、通園施設へのお手紙での案内や、愛徳医療福祉センター・各保健センターで貼っている案内を見て、また会員さんや以前参加された方のお誘いで、会員以外の方も参加してくれています。

今回「愛徳で貼っている案内を見て…」と来られたのは、大阪府熊取町の方でした。

「熊取町の附近の市町には、療育を受けるところが無くて…」とのことで、地域の保育園に通いながら、愛徳で訓練を受けているとお話しされていました。近隣の福祉的な社会資源の情報の共有は難しかったですが、「こんな話をする場が無いんです。」の言葉に、同じ自閉症・発達障害の子を持つお母さんの困り感は共有できたのではないかと感じました。

昨年度末に学校を卒業した会員さんが多く、学齢期のお母さんが少なくなっています。都合が合えば、是非ご参加下さいね。



母親クッキング

中央コミュニティセンター 調理室

☆第 1 回 6 月 1 日 (木) 参加者…18 名

<メニュー> しょうがごはん、ハンバーグ、野菜サラダ、ポテトサラダ、なすの味噌和え、玉ねぎときゅうりの酢の物、淡竹とふきの煮物、ケーキ

☆第 2 回 9 月 7 日 (木) 参加者…18 名

<メニュー> ひじきごはん、へしかつ、大学いも、かぼちゃ煮、白和え、おから、にゅうめん、ケーキ

お母さん達のお楽しみ『母親クッキング』、本当にいつもすごく美味しそうなメニューですよ。品数もスゴイでしょ！

でも、皆さん何かこのメニュー不思議に感じることはないですか？大学いもとかぼちゃ煮、白和えとおから、普通どちらか一種類ですよ。お惣菜屋さんでもないのに…なぜか？ということ、お家で収穫した物や頂いた物を持って来られるから…という事でした。

たくさんしゃべって、たくさん食べる、これがお母さん達の元気の源なんでしょうね。



NHK ハートフォーラム

7月17日（月・祝）紀南文化会館小ホールにて、「NHK ハートフォーラム～災害時における自閉症・発達障害の人たちへの支援～」が開催されました。

午前11時から、大正大学心理社会学部臨床心理学科教授・よこはま発達クリニック院長の内山登紀夫氏による基調講演「災害時—自閉症スペクトラムの人にとって必要な支援は何か？」が行われました。

午後1時30分からのシンポジウム「災害時、自閉症の人たちに求められる支援とは—それぞれの立場から」では、医師である内山先生がコーディネーターとなり、支援者・行政・当事者家族の5名のパネリストとともに、災害時の支援について深い議論が行われました。



全体交流会（茶話会）

平成29年9月13日（水） 参加者 8名
中央コミュニティセンター活動室 4

これまでは、茶話会として年1回、平日の昼間に集まってお茶をいただきながら、いろんな話をしてきましたが、コミュニティセンターが基本的に飲食禁止で“茶話会”の行事名では貸してもらえないということで、今回から「交流会」とさせていただきます。

行事予定の連絡の後、いつも通りこの時期のテーマ「対話集会の要望」が話し合われ、『作業所職員の人員不足、定着の悪さ、資質の向上』などが挙げられました。

また、それぞれの困り事などを話す中で、年齢・発達程度により異なりますが、最終的に『親なき後』の住まいやお金などどうなるのか？という解決できない共通の、そして永遠の課題に行き着きました。…と言うと深刻な話をしているように見えますが、そこは主婦の会話ですから、世間話で脱線する事も多く、始終笑いの絶えない2時間でした。



福祉制度（受給者証）についての勉強会

平成 29 年 9 月 27 日（水）
中央コミュニティセンター活動室 2
参加者 10 名



和歌山市障害者支援課の有井副主任から、小冊子『ともに生きる社会をつくる～障害者総合支援法～利用者のためのかんたんガイド』を基に、①給付の対象となる障害者（身体・知的・精神・障害児）、②サービスの種類（訪問系・日中活動系・居住系・児童通所・地域生活支援事業によるサービス）と本人の区分により利用

できるサービスと支給時間が違うこと、③サービス利用までの流れ、④サービスを利用した時の費用（利用者負担額）の順に説明を受けました。

また、これまで 1 年に一度（誕生日の 2 カ月前ぐらいに）障害者支援課の方が家庭訪問をして更新していた支給決定は、今秋から郵便で申請紙が送られてきて各自記入する方法が変わったとの説明もありました。（障害支援区分の認定調査は、有効期間毎に今までどおり家庭訪問されます。）

ひとつおりの説明を受けた後の質問は、やはり気になる親や子が年老いた時の事。「本人が歳をとって、寝たきりなどで介護が必要になった時には、どんな風に使えるのか？」の回答は「65 才以上になれば、介護保険のサービスが優先される。」とのことでした。40 才からは介護保険料を負担しないといけないのですね。

また、「行動援護のサービスで、高齢の親が本人と一緒に出かける時にヘルパーさんに付き添ってもらえるのか？」との質問には「そういうサービスは、今のところないんです。」との回答で、納得できないという空気が流れました。

社会保障の財源も厳しい中、予算に限りはありますが、より使いやすく安心できるサービスにしてもらう為に、対話集会などで粘り強くお願いしていく必要があるそうです。

～参加された上西さんの感想です～

今回の勉強会に参加したのは、受給者証は持っているが内容については何も知らないなと思ったからです。何か新しいサービスを利用することができるのか知りたかったからです。

まずは、受給者証とは、申請方法、内容の説明、利用までの説明がありました。私は、サービス名と内容を理解していなかったので、勉強になりました。

その後の質疑応答では、参加者からの質問に、和歌山市障害者支援課の方々丁寧に教えてくださいました。

私の子どもは中学生なので、18 歳以降のことはまったく解っていませんでした。18 歳以降（高校卒業時）就労時に障害支援区分判定を受けることが必要なこと、それには、指定特定相談支援事業者「サービス等利用計画案」を作成してもらわなければならないこと、その計画案を基に支給が決定すること、そして、65 歳で介護保険利用になることなど、まったく知りませんでした。

私もそうですが、18 歳未満はセルフ（親が計画案を記入して提出する）でも十分だと思っている方も多かったので、参加された方々も勉強になったのではないかと思います。今回の勉強会で知りえた情報を、今後の福祉サービス利用に活かしていきたいと思っています。

岡先生のワンポイントアドバイス②⑤

「特別支援教育が動き出して 10 年になりました」

和歌山さくら支援学校 岡 潔

ちょうど 10 年前、特殊教育から特別支援教育への転換があり、養護学校が特別支援学校になりました。そして、対象とされる障害種別に学習障害（LD）や注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症、アスペルガー症候群等の発達障害も加わることとなり、特別支援教育はすべての学校において行われることとなりました。当時、6.3%とか 6.5%といった数字もよく見聞きしましたよね。そして、特別支援教育は、すべての学校において、また、支援を必要とする子どもたち一人一人に対して充実させていく必要があると言われるようになっていきます。

5年前から、これまでの「自立と社会参加」という教育目標に加えて、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ「共生社会の実現」を目指して、インクルーシブ教育を推し進めながら特別支援教育も動いています。子どもたちの就学についても、障害の状態だけで判断されるのではなく、本人や保護者のニーズ、専門家の意見、学校や地域の場など総合的な観点から就学先が決定されます。中でも本人や保護者との合意形成が尊重されるようになりました。ゆえに、教育支援委員会（就学指導委員会）から特別支援学校判定が出ていても地域の小学校に行くことは可能です。また、連続性のある「多様な学びの場」が求められていて、普通学級から特別支援学級そして特別支援学校へという流れはよくありますが、特別支援学校で適応力や学力が向上すると小学校への転学も可能になりますね。

「合理的配慮」については過去のイコラ(No.23)でも述べましたが、特別支援学校にとどまらず幼

稚園・小学校・中学校・高校・大学に至るまで大きな影響力をもつキーワードとなりました。「A君にだけ特別なことはできません」なんて言っていた教員は、今なら管理職から大目玉を食らうこととなりますよ（笑）。均等に同じ支援をするのではなく、一人一人に分かるように手だてを工夫した支援を提供していくのが当たり前なのです。

時代が変わればえらいもので、20 年前に私が熱弁していた視覚支援は今や当たり前の支援になっています。私がかここ数年回ってきた特別支援学校では、式などの行事には、ステージ横のモニターに今何をしているのか、次に何があるのかなど視覚提示されていました。また、文字がわからない子もいるので、視覚シンボルや写真も添えられています。8年前に学会で情報を仕入れてきて研修会等で紹介してきたドロップスシンボルが、県内の支援学校ではどの先生も共通シンボルとして活用されているのには驚きでした。さらに、タイムタイマー（残り時間を知らせる機器）、イヤーマフ（聴覚過敏を緩和する装置）、VOCA（音声合成装置）、スイッチ（手が不自由でも入力を可能にする機器）、iPad（タブレット型情報端末機器）など当たり前の支援グッズとして使用されています。特別支援学校の基礎的環境整備は、地域の小・中学校にはまだまだ追いつけないレベルにあります。

今年、文部科学省は 10 年に一度の学習指導要領の改訂を行いました。これから、各学校の時間割や授業内容にも反映されていくこととなります。そのポイントを少しかいつまんでお伝えしたいと思います。「生きる力」をつけていくために学習

活動があるわけですが、「何ができるようになるか」（一人一人の知識や技能）、「できることをどう使うか」（考え、判断し、自分なりに表現する）、「どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力や人間性など）を三つの柱として各教科の目標や内容が各段階別に整理されています。ここにも特別支援学校と小学校・中学校・高校の学習内容とが連続性があるように配慮されています。今後、校種別どの学校においてもこれを読み込んで指導に当たるようになります。

私は、いつの時代においても、生きる力の育成において、場の状況、発達段階、障害の状態等に依りて、「自分ひとりのできること」「少しがんばればできること」「たくさんがんばってできること」「支援が必要なこと」を見極めて対応すること、これが教育の原則だと考えます。



ドロップスより

ビアガーデンに行きました！

平成 29 年 8 月 19 日（土） 参加者 8 名
ホテルグランヴィア和歌山 屋上



スケルトンのエレベーターに乗り屋上で降りると、熱気と焼肉の煙がやってきて『早く冷えっ冷えっのビールが飲みたい！』という気持ちが湧き立ちました。さあ、2時間飲み放題・食べ放題の宴の始まりです。

ビールはサーバーから自分で好きな種類を入れるセルフ方式、食べ物も焼肉・焼鳥・枝豆といったおつまみから、たこ焼き・焼きそばなどの屋台メニュー、スイカやケーキ・ソフトクリームまで盛りだくさんでした。

「お肉焼こう！」「焼鳥温めなおす？」など言いながら食べては、狭い席の間を通り抜けビールのお代わりをして…昔色んな所でやっていたビアガーデンの思い出などを語り合いました。飲み放題・食べ放題といっても 40～60 代ですから「昔ほど飲み食いできなくなったなあ」や「次回は涼しい場所がええなあ」との声も出ました。結構長い付き合いになりますが初めての飲み会、楽しい夏のひと時でした。

事務局から

今年度からお母さんの交流会や親子クッキングの担当をさせてもらっています。つくづく大変だなあ！！と言うのが本音です。今まで長い間担当してくれていた役員さんには感謝です。何度も、あれ？これでよかった？？と思い不安になったりしました。でも、準備する事で見えてくる事や勉強になる事もあり、私自身良かったと感じます。まだまだ不馴れなため少し時間がかかる時もあるかと思いますが、頑張っていきたいです。

事務局 野村 夕子

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美 《発行》イコラ編集局（連絡先）尾崎富久子
e-mail: fukuko2939@gmail.com

※ イコラは Web 版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！！